

お薬師さまは、正式には「薬師瑠璃光如来」といいます。西の極楽世界におられるとされる阿弥陀如来と対になる、東の浄瑠璃世界におられる仏さまといわれています。その名前の通り、お薬師さまは病気を治してくださる仏さまとして古くから信仰を集めてきました。

昔は、お医者さまやお薬がたいへん貴重な存在であったので、病気になるとそれは大変なことでした。現代のように医学が発達しているわけでもなく、衛生状態もよくなかったことでしょう、病気になるとということは、死を意味することも多かったのです。

そこで、お薬師さまの名前を聞けば病気が治るといのご利益ある仏さまは、早くから社会に受け入れられました。お薬師さまのまたの名を、医者の王の仏と書いて「医王仏」といいます。

このようなお薬師さまは、如来になる前の時に、「人々が健康でいられるように」という願いを含めて十二個の誓願を持って修行を続けていたといわれています。

飛鳥時代から平安時代にかけて、京の都につくられた寺院には、ご本尊さまにお薬師さまが多く、その中でも当時、仏教の総合大学と言っても良い「比叡山延暦寺」にある根本中堂のご本尊さまもお薬師さまです。

お薬師さまの信仰は、奈良時代の初めからおこり、全国へ広まってきました。

お薬師さまの仏像は、右手は人々の恐れを除くための、施無畏印（せむいいん）、左手は人々の願いを受け止める、与願印（よがんいん）という印を組んでいる姿や、左手のひらに薬壺（やくこ・やっこ）、薬の壺を持っていることが特徴の一つで、新しい仏像ほど薬の壺を持っていることが多いそうです。また、お薬師さまの右隣には日光菩薩、左隣には月光菩薩を祀り、その周りには十二神将が取り囲み、お薬師さまをお守りしているという配置がよく見られます。

現代の人々は、さまざまな健康食品や運動施設などがある中で、自発的に健康に気をつけている方が多いようです。そのような方は、体の健康はもちろん、心の健康も願っていることでしょう。ストレス社会といわれる中で、さまざまなストレスを抱えている方も多いかもしれません。

心を落ち着けるために、少々の時間を割いてお寺に行き、古来より長い間信仰を

集めてきたお薬師さまをお参りしてみてもいかがでしょうか？

ご自身の内面をよく見つめて、心安らかに無病息災を願って見るのも良いと思います。

— 終 —